

外国人追い出しではなく、手を取り合うために

(原ウニフから続く)

なぜ日本にやってくるのでしょうか。

人間はだれしも愛する家族と生活したいと思います。住み慣れた祖国を一人離れて、言葉も通じない、右も左もわからない異郷の地で生活したいと思う人はまずいではないでしょう。でもそうしなければ生きていけない現実が、アジアで起こっているのです。しかもこれは私たち日本人にも関係のあることなのです。

最近日本の資本はほとんどアジアに出かけ、工場を作り、開発を行っています。「ODA」という言葉を耳にされた人は多いと思います。密では、「経済援助」とか「経済協力」とか言われ、さもアジアの人々の役に立ち、良いことをしているかのように言われています。でも事實は違います。これまでアジアの人々の多くは、農業や漁業で生活を営んできました。ところが日本の資本が入り込み、農地を買い込み、刃り一帯バナナの木を植えます。森林を伐採し工場を作ります。海を埋め立てエビの養殖を始めます。こうした結果、農業も漁業もできなくなり、おまけに「近代化」の結果、物価はうなぎ登りに上昇します。日本が作った工場は安い賃金しか払ってくれません。しかも工場設備の合理化の度に、たくさんの方が働き場所を失ってしまったのです。アジアの人々は皮肉にも家族を養うために仕事を奪った日本に働きにこざるをえないのです。

◎茨木入管収容所を建設する目的とは？

日本政府はアジアからの収容によってなりたつた「繁栄」を独り占めにし、アジアからくる人々を締め出してきました。在留や就労を厳しく制限しないと日本に定住するのではないかと恐れているのです。一企業戦士などと一言いながら自分たちはアジアや世界の各地に出掛けている、好き勝手なことをしていても、アジアから働きにくることすら認めようとしません。

ところが今年から政府はこれまでの「全部認めない」姿勢を変えて、一定の人数だけは認めようとしています。建設業を始めとした深刻な人手不足を解消しようという目的からです。ただし、「2年間だけ」「家族を呼び寄せることは禁止」「職種が変わることも禁止」という条件つきです。これでは最低限の人間の権利すら保証されていません。ただ物を生産するための道具でしかありません。ただ一方で一部分的には認める「こと」によって、多くのアジア人がくるのではと恐れています。そこで、認められた人以外は追放しようというのです。つまり政府と企業の都合で必要な人数だけ連れてきて、徹底的に管理し、安い賃金でこき使い、それ以外の人はほとんど追放できるようにしようというのです。

◎地元でちようちん行列に疑問の声！

9月19日の土曜日の午後7時から、市役所の前からちようちん行列が行われるそうです。ちようちん行列と聞いて思い起こすのは、「戦勝祝い」「出征兵士の送り出し」そして「天皇の祝い」です。明治以来、ちようちん行列は絶えず戦争の歴史と一体のものでした。「ちようちん行列なんて恥ずかしい」「ちようちんは無駄づかい」「参加したくない」と言った声か地元でも聞かれます。好意的とはいかない市民の反応もできつつあります。「収容所反対」のちようちん行列をアジアの人々はどんな思いで見るとでしょうか。外国人排斥運動と感ずるのではないのでしょうか。私たちはどうもそんな疑念をもってしまうのです。

◎私たちは茨木入管収容所建設に反対です

私たちは、戦前から現在に至るまで、アジアの人々に対して大きな罪を背負っています。ですから戦争への反省と償いを誠実にしながら、アジアの人々と手を携えて共に生きていく必要があると思っています。私たち「考える会」は、7月30日に初めての集まりをもちました。茨木を始め北摂一帯から参加をえて、地道に反対の声をあげていこうと思っています。そして9月2日には第1回の学習会をもちました。講師は、外国人労働者問題に詳しい弁護士丹羽雅雄さんにきていただきました。今後とも、アジアの人々と手を携える立場から収容所建設反対の声をあげていこうと思っています。もしよければ、私たちの集まりに一度お越しください。大歓迎です。



茨木入管収容所建設疑問問題を考える会
連絡先「茨木市中津町4-31-1 山下けい子方」 ☎0566-335216